VARÓN DE DIOS
（神の人）

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
九州教区 壮年部　2022年3月号

ハレルヤ！主の御名を賛美します。

九州教区内の壮年部の皆様、いかがお過ごしでしょうか。３月になって春らしい暖かい穏やかな天候が続いています。１年の内でも最も良い季節です。

とは言え、オミクロン株によるコロナ感染は、いまだに終息せず、福岡県の感染者数は２300人を超えています。（３月８日現在）またロシア軍のウクライナ侵攻によって、多くの犠牲者が出ており、それに対する経済制裁で日本にも影響が出ると思われます。

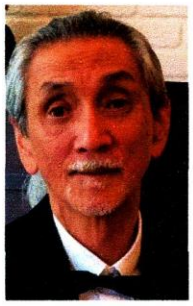
この先どうなるのだろうと不安を感じることもありますが、このような時こそ「目を覚まして、堅く信仰に立つ」ことが求められるでしょう。

今回は、福岡県直方市にある直方クリスチャンセンターの２人の壮年部の方の証です。

直方クリスチャンセンターは、一人のアメリカ人クリスチャンの祈りによって始まり、その方が市内にトラクトを配り続け、救われる方々が少しずつ起こされました。数年前に

は思いもよらない火事もありましたが、主に支えられて、今日に至っています。地域に建てられた教会として、地域に根差した歩みを続けておられます。

「エホバの証人から
キリストの証人へ」
原田康次



私と妻は、エホバの証人として結婚しました。約10年程その組織にいましたが、次第に組織の内情を知るようになり、この世の人たちと変わらない強い強いあつれきが有る事を知りました。この組織は、いわば競争社会なので、業績(伝道)を上げる人たちは誉められ、そうで無い人達は抑圧を受けます。

その結果、自分の業績を誇って傲慢になり、他の人を見下げていく人がいたり、又どこまで頑張っても達成感の無い人達は自己卑下に陥り、うつ病に成り自殺する人もいました。

又、私達は伝道の為に定職に着く事も出来ず、何時も貧しく最低の生活をしていました。ですから、何時も夫婦の間で、いさかいが絶えず不安でした。神様を信じたのに、だんだん偏屈で人の意見を聞かないロボットのようになっていく感じがしました。愛の心が枯れ、快活な自分が失われ

ていく様に思い、組織を離れる事にしました。

組織を離れて自由な人生を送る様になっても、夫婦仲や子どもの問題は解決しませんでした。それどころか、お互いのエゴが更にぶつかり合い、夫婦で、親子で殴り合うという最悪な家庭に成っていました。

こんな生活は、もうこれ以上続けられないと思った時、不思議な事ですが、私は神様に祈り「もう私には何もできません。私の人生をあなたに委ねます。あとはあなたのお仕事です。」と訴えていました。

神様は、その祈りを聞いてくださり、私達家族を憐れんで下さいました。私は、押し入れから聖書を取り出し、新たな気持ちで読み直し、イエス様がエホバの証人が教えるような、ただの偉大な教師ではなく、真の神様であることを見出しました。この方が私たちの罪のために十字架にかかって死んでくださった事を信じる事で、私は救われると確信しました。

妻には黙っていようと思いましたが、墓の問題が有り、仕方なく私は妻に「どうも私は死んだら天国に行ける様だ」と伝えると、妻は意外にも「イエス様は神様だったんだ!」と大喜びしました。

その日から約一年間、口争いさえ無い、新婚時代の様な日々を神様によって与えられました。神の奇跡でした。

その後、20年間エホバの証人だった母も救い出す事が出来ました。

イエス様から救われて、今年で28年になります。エホバの証人からキリストの証人に変えてくださった主に感謝致します。

「イエスは言われた。あなた方は、地の果てにまで、わたし(イエス・キリスト)の証人となります。」

(使徒 1:7〜8)

「私の人生」

河野弘純

直方クリスチャンセンターの河野弘純です。私は生まれた時から創価学会に籍を置いており、父親は昭和39年6月に死去しました。成人式までの20年間は、それなりに幹部として活動してきたのですが、昭和53年3月頃に週刊誌による報道があり、当時の疑惑について確認したところ、「全部嘘なので信用する必要無い。」と言われました。しかし他からの反応で、どうしても説明責任が有ると思い、別のルート(大石寺に籍を置く小さい頃からお世話になっている僧侶)に相談して、創価学会を辞める事になりました。

小さい頃から向こう三軒両隣で、仲良くするようにと言われて来ましたが、 創価学会を辞めたら馬耳東風、

非難などが酷くて、聞くに耐えない言葉もありました。 その為に宗門側でも、一応名前が知れ渡るようにもなりました。

ちょうどこの頃は自営業をしておりましたが、平成元年の秋に、たまたま新築中の建物があり、何故か見たくなりました。その時、お腹の大きな女性がいて、餅まきが始まると周りの人を突き飛ばすや、襟を掴んで引き倒すなど、その妊婦さんの激しい行動に私は固まってしまいました。

この事は記憶の片隅にあったのですが、この人が偶然にも教会に連れて行く女性になるとは思ってもみませんでした。私は遊技場で仕事していたのですが、支店から本店へ異動になり、本当にたまたま居たお客さんに声をかけてから、それなりに話しするようになりました。私も相談などをされたりしながら、次第に意識するようになっていました。

自宅に呼ばれた時、彼女に不眠症やフラッシュバックが出ている様子を見て、最初は逃げたほうが良い？と思いましたが、何故かできずにいました。また２人の 子ども達や室内犬も懐いていましたので、私は様子を見るために彼女の家に行っていました。

彼女は躁うつのようで、感情が激しい時もありましたが、「どうしても教会に行きたい。賛美がしたい。」などと言っていました。今までの私の生活の中では「教会に行く？マジで言っているのか？訳がわからん。」と思いながらも、仕方なく彼女を教会へ連れて行きました。

そこで見た光景に首を捻り、何か訳のわからない事が目に入ることになり、こんな事になるとは思ってもみませんでした。

当時、彼女の目は死んだ魚、ろれつは回らないし、足腰は立たないから背負って教会に行くことになりました。まさか賛美歌を聞いたり、聖書のことばを聞いたりした後に、それまでは歩く事すら出来ない人が、その後は普通の状態で帰宅するものですから、一般人の私からしたら半分以上パニックになりそうでした。

そんな事を何度も見せつけられると、自分の心の中にある事が起こりました。彼女の家族は洗礼すると言い出し、「自分達は天国に行けるけど、あなただけは地獄に行くんだね。」などと話していました。

この頃は、彼女は何とか親としての生活(食事、掃除、洗濯)などをしており、楽しそうにしていました。昔のことを色々話す中で、彼女が昭和39年６月５日生まれであり、昔の写真などを見ていたら当時目にしていた、あの妊婦さんだと分かりました。

そんな時だと思いますが、まさかの出来事に２人で びっくりする事が多くありました。 その家族が洗礼を受ける為に教会に行くのですが、まさか私自身も洗礼を受けることになるとは思いもしませんでした。

そして４人で年末の1999年12月26日に、北九州シオン教会で洗礼させていただきました。ただ年末で、この日は風は強いし、雪が降る中で洗礼しました。体は寒さで震えていましたが、心は本当に嬉しく、寒さを感じる事はないと思いました。

洗礼を受けた４年半後に、彼女は亡くなりました。そしてその子ども達は実父に引き取られることになりました。彼女と暮らしている中で、結婚するつもりで婚姻届を書いて、保証人さんも記載してくれた書類は、彼女が自分で出すからとの約束でしたが、出さず仕舞いでしたから、残った子ども達は実父の所へ行きました。

この家族と暮らしていたのは最終的に５年間でしたが、今でもいい関係が続いています。一応母親にも結婚する事を報告して了解して貰っていましたし、母親の誕生日などには電話だけですが、それなりに良い関係がありました。

現在、私は１人暮らしですが連絡も来ますし、子ども達とはつかず離れずの関係です。

洗礼を受けて23年ほどたち、私自身も寂しさを感じて自殺を考えたりしたこともありますが、今はなんとか生活しています。膀胱がんになったり、両手首に障害が出たり、右肩は交通事故のため肩の甿が切れて、これも障害になっていますが、神様に守られて生活出来ている事に感謝して過ごしています。

教会では洗礼用プールを作ったり、洗礼後の濡れた時の為に床に専用シートを作ったりと、出来る限りのことをしています。後何年生きるかわかりませんが、父親よりも長生きしていますから、あとは天国に呼ばれるまで、自分の出来る範囲で教会の奉仕をして行くつもりです。

私のこれまでの人生について、大雑把に書きました。私のように創価学会にいた人間でも、クリスチャンになる者がいます。頑固な人間ほど、心を動かされたら信じる力は凄いと思います。また神様からの言葉と思っても、聖書で確認せずに実行するのはどうかと思います。その言葉は本当に神様からなのか、サタンからなのか、自分でも見極めながらやっています。見極めを間違えると、教会を壊し、教会員を道連れにしてしまいます。神様から離れた考えを持たないように頑張ります。

広報誌の名前は「**VARON DE DIOS**」（バロン デ ディオス）です。これはスペイン語で「**神の人**」という意味です。

九州教区　壮年部担当　松尾　敬文
福岡市東区水谷 1-14-3
福岡キリスト教会　092-681-5501